

○4番（鈴木英明君） おはようございます。議席番号4番、鈴木英明君です。傍聴にお越しの皆様には、年末のお忙しい中、足を運んでいただきましてありがとうございます。質問に入る前に、今定例会は橋本町長の3期目の最後の定例会ということであります。まず町長、この4年間お疲れでした。

それでは、議長により発言の許可をいただきましたので、通告に従って質問させていただきます。質問は、境町モデルと次期町長選挙についての2点ほど質問させていただきます。

1点目ですが、3期12年の事業の境町モデルの成果についての総括をお伺いいたします。境町モデルとは、施設の建設は拠点整備交付金など国の補助金を活用して、町の財政の負担をなるべく減らす工夫をされていて、町が負担した建設費用は、その施設に民間の業者に入ってもらい家賃をいただき、さらに維持管理費用は民間の事業者が負担するため、町の費用負担はゼロで施設を運用できるということですが、その仕組みを確立したこの12年間の成果を、町長ご自身がどのように総括されているかお伺いいたします。

2点目の質問ですが、次期町長選挙についてですが、11月28日に出馬を表明され、翌日の朝刊に掲載され、折り込みチラシも入っていました。再選されたときには、今後の境町の町政運営をどのようにしていくのかをお伺いいたします。いずれも昨日の町政報告で町長から詳しく聞いてしまったのですけれども、改めて、今日は傍聴の方も来ているので、答弁していただきたいと思っています。

1点目と2点目一括で構わないので、よろしくお伺いいたします。

○議長（倉持 功君） 町長、橋本正裕君。

〔町長 橋本正裕君登壇〕

○町長（橋本正裕君） まず、鈴木議員さんのご質問に、改めて感謝と御礼を申し上げたいと思います。こうして3期12年の成果について述べる機会を与えていただきました。さらには、今後の町政に対する思いということでご質問いただきましたことを改めて感謝と御礼を申し上げます。

今議長にも許可をいただきまして、境町でいつも配っている資料、議員さん方と、そして傍聴者の皆様方にお配りをさせていただきます。境町モデルにつきましては、12年というよりは、直近でちょうど一番最初にやったのが、あそこの隈研吾さんのS-L a b 1でしたか、干し芋の工場と造らせていただいて、今はワインの工房になっていますけれども、あちらを皮切りに本当に多くの施設を造らせていただきました。今では内閣府のモデル事業だとか、それから参考資料にも境町の取組がよかったということで載るようになってまいりました。その中で、この境町モデルというのは、先ほど鈴木議員からもありましたとおり公共施設の建設、運営、それに設計も一括でプロポーザルで……

〔「傍聴者にも配った……」と言う者あり〕

○町長（橋本正裕君） みんなで配ったらいいでしょう。そして、その運営コストは民間から家賃として回収するという、境町では持ち出しをゼロにするというのが、この境町モデルであります。おかげさまで、干し芋の施設につきましても家賃をもらっているわけでありましてすけれども、その前に干し芋の施設なんかは年間に2億7,000万ほどふるさと納税が来るものですから、逆にそういった金額によ

って、投資した分については1年や2年で回収することができております。しかし、ふるさと納税で回収するだけではなくて、実際に家賃としていただいているものですから、皆様もご利用いただいている葵カフェさん、ああいったところも実は年間に500万円ほどの家賃をいただいております。さらに、ブッチャーズさんという焼き肉屋さん、あちらに関しましては月55万円の賃料をもらっているのです、年間660万円いただいております。そのほかにも、本当に様々なものを造らせていただいて、さかいサンドもそうですし、河岸の駅なんかもそうですし、道の駅のレストラン茶蔵なんかも家賃をいただいていますし、さらにはウナギの施設なんかも造らせていただきましたけれども、昨年1年間でウナギへのふるさと納税の寄附額は9億円を超えたということですので、経費が例えば半分以下ということになっていますので、4億5,000万円は純粹にもう収入として入ってきているわけです。ですので、あの建物4億5,000万がかかっているとしたら、1年で回収をしてしまったと。にもかかわらず、家賃はいただけるということでもありますので、現在令和7年の見込みでは1年間に1億8,436万円ほど入ってくる見込みになっておりますし、平成27年から令和7年までの境町モデルの総収入額、もう既に入っている金額8億436万円を町へ収入として入れさせていただきました。

こういう自治体が稼ぐということは、今までどの自治体もほぼやっていなかった。さらには、第三セクターってよくつくると思うのですけれども、第三セクターでそういうのをつくって失敗したという例はたくさん聞いていると思います。不動産の開発公社をつくった、土地公社をつくった、農業法人つくったけれども、お金は入れたけれども、結局何のブランド化もできないで倒産したとか。昨今ヤフーニュースなんかでは、20億円投資して造ったそういう活性化施設が倒産をしたと、読みが甘かったと、そんな話もニュースで出ておりますけれども、境町の場合はおかげさまで、まちづくり公社さん、野口富太郎社長にやっていただいておりますけれども、支払いが遅れることなく、滞りなく毎年払っていただき、時にはまちづくり公社から、議会の皆様もご承知のとおり2億円の寄附をいただくなど、もうかったときには町へその分も還元していただいたということで、まちづくり公社については3名の従業員だったところが今は150名を超えて、さらには正社員がもう52名を超えているということでもありますし、非常にこの境町モデルの投資をしたことによって、まちづくり公社自体も運営がうまくいっている。普通だったら銀行からお金を借りて、それで返しながら、利益を出しながらやるものですからかなりリスクも高いのですけれども、自治体でやると補助金が入るものですから、この補助金を活用してやったことによって、境町モデルというのは非常に上手にしているのかなと思います。

農業関係でも、舞台ファームさん、ちょうど喜五郎と七軒の間に農業施設を造りました。こちらも、今舞台ファームさんからは年間に600万円ほどの家賃をいただいております。さらに舞台ファームさんからは、もう少し稼ぐ施設を造りたいということで、カット野菜の工場などもぜひ議会の皆さんにもご相談して、カット野菜の工場を隣に造りたいと。そうすることによって、境町の農業者の所得を上げられるのだという話もこの間聞いたところでもありますので、こういったことも議会の皆様と相談し

ながらやっていければなというふうに思っています。

さらには、あそこのグランピング施設とか、それからサーフィン施設、よく町の方からは、入っているのかって聞かれるのです。実は僕大家なものですから、入っていても入ってなくても本当は関係ないです、家賃だけいただければ。大家ってそうですよね、ラーメン屋が売れていても関係ないですよね、家賃だけ払ってもらえればいいのです。だけれども、町なので、そういうわけにはいかないのです、一応グランピングの施設なんかは前年比30%増だということで、お客さんが30%増で来ますと、非常に回るようになってきましたということも聞いていますし、サーフィン施設も、来年の4月からは伊藤李安琉君という、この間世界大会で2位だった子が境町に引っ越してきますので、そしてcitywaveのアンバサダーに伊藤李安琉君と、さらには都筑有夢路ちゃんという東京オリンピックで銀メダルだった23歳の子がいるのですけれども、22歳かな。その子もcitywaveのアンバサダーに4月からなることになっていますので、ああいう施設があつて、さらには家賃ももらって、町の負担としてはないにもかかわらずいろんな人が、トップ選手が境町へ関わってきていただけるということで、非常にこの境町モデルというのは面白い取組になっているのと、さらに懸念としては、では運営がうまくいかなかったときどうするのだというのがあると思うのですけれども、そういう部分は、まちづくり公社さんは別として、ばんどう太郎さんとかONODERAさんなものですから、ONODERAさんなんかは年間に1,700億やる会社でありますから、横浜FCのオーナーでもありますし、そういったところが家賃が払えなくなるということはないだろうというふうには思っていますので、今後契約も10年とか15年でしておりますので、しっかりとお金のほうは払っていただけたらと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

サーフィン場とグランピングやっているところも、実はあそこの蛇池、山崎地区の土地を買った方ですから、投資をするのに。この方も非常に、俗に言う富裕層の方々でありますので、お金が払えなければ自腹でも多分払っていただけるというふうには思っているのです、その提案してきたときに、その人たちが払えるか払えないか、財務基盤がちゃんとしているかどうか、ここもやっぱり重要なところだと思っていますので、そういう意味ではまちづくり公社さん、ばんどう太郎さん、さらには舞台ファームさんにONODERA GROUPさん、それからSummyさん、非常にありがたいことになってございます。

そして境町モデルの中で、補助金で建てて民間とともに公設民営でやるという中には、実際に100%公設でやっているさかいソーラーの株式会社がございます。ちょうど設置をしてから非常に時間たつわけでありましてけれども、おかげさまで今までに1億9,600万円ほど町には寄附をさせていただきました。この会社2メガありますけれども、全額僕が借金をして筑波銀行からお金を借りて、町のお金は30万円の持ち出しでつくったのですけれども、30万円の……

〔「常陽銀行」と言う者あり〕

○町長（橋本正裕君） 常陽銀行さん。すみません、常陽でした。30万円で作ったのですけれども、

僕は無報酬でやらせていただいているのですが、1億9,600万円町へ寄附させていただいたので、何か感謝状出るとかなと思ったら、町が100%出資の会社は町長がやっているというのと一緒なので、感謝状は出ないのだそうです。一般の企業だと、2億円も寄附すると国から紺綬褒章というのをいただけるのですけれども、これ1,000万だけ、企業は、500……とにかくは1,000万ぐらい寄附すると国から、天皇陛下から、内閣総理大臣からもらえるのですけれども、町が100%出資なので駄目だということで、最初の30万出したときに、僕も30万出してしまえば半々ぐらいになったのかなと思いながら、15万か。15万でよかったですものね。そんなことを思いながら、非常にさかいソーラー株式会社も回っている会社になっています。今年度、来年度におきましてはこのソーラー株式会社に対して、やっぱり年数たつと熱の変換効率が悪くなるのと、さらには劣化してくるわけです。ある企業さんが新しいフィルムに張り替えて、さらにパソコンも全てその企業の負担で新しくしてくれるということでこの間話がまとまりましたので、今後はこのソーラーの施設についても全面新しくリニューアルをただで、町としては無料で、全額寄附で受けさせていただいてやると6%以上熱効率が、要は収入が6%以上増えるということでも聞いていますので、本来は今のソーラー、今のパソコンだと替えても合うのではないかとということで試算していたのですけれども、今回すばらしい企業が全額、多分数億円なのではないかと思えますけれども、寄附をいただけるということで話まとまりましたので、皆様方にもご報告いたします。

そして、地域優良賃貸住宅でありますけれども、こちらもPFIといって公設民営なのです。町がやっている、町がやっているってみんな思うと思うのですけれども、テレビでもふるさと納税でやったのだなんて思うと思うのですが、そうではないのです。あれは公設民営といって、PFIという方式で民間の力を活用してやっているのです、町の事業ではあるけれども、町のお金を使ってやっているわけではないのです。ですから、あちらは筑波銀行か。

〔「そうです」と言う者あり〕

○町長（橋本正裕君） あちらは全額もう筑波銀行から借入れをして、SPCという地元の企業さん、例えば代表企業が篠原工務店さんだったり、新井建設さんだったり、それから中和建設さんだったり、がやっているわけでありましてけれども、そこが筑波銀行からお金を借りてあれを運営しているというのが実は仕組みです。ですから、5億円かければ、2億5,000万円は国から入ってしまうのですけれども、残りの2億5,000万円は町の皆さんが筑波銀行からお金を借りて運営しているというのが仕組みです。ですから、よくふるさと納税でもうかっているから、あげちゃう住宅やっているのだなんてテレビは面白おかしくやるのです。やっぱりそのほうがみんな見るではないですか。でも、実は違うのです。あれ篠原工務店さんとか新井建設さんが筑波銀行からお金を借りて、それでやっているのです。ただ、5億投資で2億5,000万返せばいいわけですから、もうかるというところとちょっとあれですか。そんなにはもうからないかもしれないけれども、もうかるわけです。町としては土地を貸したりして、今まで大体5,800万円のお金が町入っています。ですから、町で土地を買ったところもありますから、1,000万ぐ

らいで買ったとか、地元の地権者の皆さんにご協力いただいて土地買っていますから、その辺の部分でこの5,800万円収入があるということと、さらには移住してきた方々がいっぱいいて、その方々が住民税払っていただいているものですから、そういった方々は夫婦の世帯年収、しかも課税所得が結構もう500万円以上ある方々が多いものですから、非常にそういう方々が境町へ引っ越してきていただけるというのは町の税収アップにもなるものですから、そういった形でやっていますので、この地域優良賃貸住宅についても非常に回っている。今年度についても33件の募集に対しまして、33件、今回は泉田だけではなくて、ちょうど塚原肥料屋さんの隣、今まで更地になっていましたけれども、あそこ町で寄附いただいたのです。あそこに2軒建てますし、前に松岡町にも2軒かな、建てます。さらには宮本町と住吉町の、あそこのは地番宮本町かな、今度の5軒。

〔「住吉町」と言う者あり〕

○町長（橋本正裕君） ちょうど今やったところの続きのアクアステーション側に、空いている土地に5軒建てますので、こちらにも実は236件の申込みがありまして、去年は256件でした。去年より20件少ないなど思われていると思って、僕は中見たのです。そうしましたら、去年は100件ぐらい冷やかしの人がいました。申し込むけれども、やっぱり所得ゼロとか、そういう人たちが結構いたのです。今年、もう8割以上本気の申込みです。なので、選定委員会って行って、やっぱり僕が選ぶとおかしくなってしまうから、町長が勝手に決めたのだとか、親戚入れてしまったなんて昔よくあったような話になってしまうから、僕は選定委員会つくって、民間からも団体の方とかも入ってもらって選んでもらうのです。その皆さんが選んだら、それでいいよというふうに僕はしているのですけれども、そういう形で選ぶほうも今回は大変だったのではないかと。子供の数とか、世帯の年収とか、どこから引っ越してくるかとか、やっぱりそんなのいっぱいあるのです。

もう一つは、こういう移住政策で面白いのは、面白いと言ったらあれですけども、どことは言わないですけども、隣の大きな市の職員さん2人で境町のアイレット、マハロタウンとかに申し込んでくるのです。それだったら、2人で境町の職員になってしまったほうがいいのではないかと。境町で働きながら移住してくれるのならいいのだけれども、あっちで働いていて住むのだけこっちではちょっと、古河とは言わないですけども、古河の職員さんなんか多いのです、境に引っ越してきたいという応募が。だから、やっぱりそういう方々、ぜひ境町の役場を受けていただくとありがたいななんて思いながら、今いろんな見ていると、ほかのまちに折り込み入れるものですから、もう久喜から越谷辺りまで折り込み入れるのです、境町に引っ越しませんか。この間も、久喜の市長も仲いいものですから、あと越谷の福田市長この間再選したので、ちょうど春日部の市長とかと一緒にいたら、橋本さん、入っていたよ、またあの折り込みって言われて、もうすみませんって言いながら越谷見たら、越谷も5件ぐらい申込みがあって、ありがたいなと思いながら、やっぱりそういう形で議会の皆様方が協力をしていただいているおかげで、こういう境町モデルの賃貸の公設民営の企業版、そしてそういうソーラー、そしてこういった住宅というものがうまく回っているものですから、本当に

国のほうにも感謝をしながら、そして議会の皆様にもご理解いただいて、感謝をしながらやってきたというのがこの12年、そして直近の4年であります。

そして今後についても、今境町としては働き場所の確保というので、やっぱり工場なので、工場以外のデスクワーク的なものも今後は募集していかなくてはいけないだろうなというのでもあるのですが、そういう中では生肉の加工工場、さらには炭酸水の工場、そして魚とかの加工工場ですか、それを今誘致して建設をするところまで来ておりますので、雇用の増にはつながるのではないかと。さらには、ふるさと納税も今後上限が決まるということでもありますけれども、ここにいる皆さんは、上限年収5,000万で200万になるのではないかとというのが出ていますので、多分みんな大丈夫ですよ、5,000万。議長だけ駄目か。

〔何事か言う者あり〕

○町長（橋本正裕君）　なので、多分うちは大口のお客さんというか、寄附者も多いのです。もの要らないから1,000万やるよって人も多いので、それはちょっと200万になってしまうので残念ですが、そういう意味では、健全な方向でふるさと納税が存続をしていただければ我々ありがたいというふうに思っていますので、そういった制度に寄り添いながらやっていきたいなというふうに思っているところであります。

本当にこの財政負担、そういったものをなくしていく、さらには境町モデル、実はこの境町モデルが横展開をいたしました。1つは、つくばみらい市というところで米工場を造ります。米の精米工場、そしてブランド化の工場で10億円の補助を取ったそうです。そして、この境町を見て笛吹市、山梨県でありますけれども、そちらも12億円ぐらいの補助を取りました。それは、ちょうど古くなった武道館があるので、それをリニューアルするのに地域の地方活性化を加えて、境町モデルでやりたいということやるということで聞いておりますので、これは、笛吹市は稼ぐ施設ではないですが、そういった形でいろんな自治体が境町のモデルをまねをして、そしていろんなものを展開していくということでは非常にいいことなのかなというふうに思っていますし、この地域優良賃貸住宅という3階建ての鉄筋コンクリート、ちょうど山神町とか旭町にありますけれども、あちらについては五霞町さんもまねをされて造りました。そして、八千代町さんも造りました。そして、つくばみらい市さんも造りました。近隣だけでも3つの自治体が、境町がこういったことをやったことによって、我々もまねしてやろうということやっていたので、この境町モデルというものについては、非常に今のところ機能してきていてありがたいモデルだったので、ぜひ今後ともしっかり進めていきたいというふうには思っています。

そして、今後の境町の町政運営については、先ほど鈴木議員からも町政報告にも書いてあったという話がありました。この12年間は財政の再建、いろんなものを造って、いろんなもの投資をして移住をしてもらって、やっぱり町へお金を落としてもらって、そのお金が回る仕組みというのをつくってきたのが、この12年間でした。ですので、コロナのときとか、そういうときには皆さんにいろんなも

のをお配りさせていただきましたし、今も物価高騰対策やらせていただいていますけれども、やっぱり枝さんの質問にもあったとおり、公共施設で稼がない施設、例えばテニスコートであったりとか、それから体育館であったり、そしてシンパシーホールであったり、給食センターであったり、いろんなものですよ、お金はかかるのだけれども、維持費ばかりかかって稼ぐものではないではないですか。あちらについて、ようやく計画をしながら1個ずつできるターンに入ってきたのかなというふうに思っていますし、住民の方からは、ちょうど12年前に38で就任したときは、45年間ずっと借金増え続けてきたって話を、12年間減らしたって話をしたら、ここで一気に貯金が増えたのだったら、その貯金で返してしまえばなんていう人もいますのでけれども、それよりはやっぱりそういう老朽化した施設にも割り振りをしていかななくてはならないだろうと。借金返してしまうのもいいけれども、それよりも目の前にあることもしっかりやっていかなくてはいけないだろう、そういうことも思っておりますし、ちょうど今回田山さんは、まだ財源が確定していないので、質問からは取り下げいただきましたけれども、物価高騰対策今2,500円やっているけれども、来年度も何かやってくれないのという質問があったのです。町の人に聞くと、来年も早い段階でそういうのがあったらありがたいよねってやっぱり言うのです。ですから、やっぱり議会の皆さんと相談しながら、新年度については、皆さんが今困っている課題をしっかりと1個ずつやっていけるようなものをちりばめられたらというふうに思っていますし、今回も補正予算で生活圏道路1億5,000万円ほど追加をさせていただきました。やっぱり道路なかなか進んでいないというところもあるでしょうし、歩道をやらなくてはならないところもあるでしょうし、壊れているところもあるでしょう。そういった部分は議員の皆様方、そして区長をはじめとした住民の皆様方が一番身近で分かっている部分だと思いますので、予算がなくなるときには議会の皆さんと相談をして、また補正をさせていただければというぐらい思っておりますので、ぜひ今後の町政運営については、とにかく町の人が住み続けられて、やっぱり今物価高騰だとか、それから先ほどの田山さんの質問でも、認知症だとか高齢化で独り暮らしになっていたり老老介護になっていたり、そういうところが多くなってきて不安が多いのだと思うのです。やっぱりその不安の中で余暇を楽しもうとすると若い人たちのところ、枝さんのところのように壊れていて使えないのだとか、そういう話になったりするのだと思うのです。やっぱり一つ一つ改善してあげることが町民の皆さんの夢や希望につながるというふうには思っていますので、今後も人ごとではなくて、町民の皆さんの自分事を我々の自分事に捉えて、しっかりと一歩ずつ着実にやっていくというのが町のためになるというふうに思っていますので、2月選挙がございましてけれども、当選させていただいた暁には、やっぱり住民の皆さんが境に住んでよかったなと言われるような、そういう町をしっかりとつくっていききたいし、それは1人ではできないので、職員の皆さんはもとより、職員の皆さんもとにかく今まで12年間非常によく働いていただきましたので、この後も、また町長来るのなんて思われるかもしれないですけれども、それはやっぱり言いづらいことも言わないと、町民の皆さんのためになるかどうかで言っているのです。理不尽に、上から偉そうに言うのはよくない。だけれども、やっ

ぱり町民のためになるのに何でやらないのというのはいっぱいあるわけです。やっぱりそこは自分事だと思って、町民の皆さんのためにということを思って職員の皆さんにも努力をしていただき、そして議会の皆さんにも隔々までいろんな声を届けていただき、そして町民の皆さんにも声を届けていただくことによって、この境町がよくなるというふうに思っていますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

今後の……3分になってしまった、すみません。60分あるのだと思っていた、すみません。鈴木議員の質問に感謝を申し上げまして、私からの答弁とさせていただきます。ご質問ありがとうございました。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し質問はございますか。

鈴木英明君。

○4番（鈴木英明君） すみません、もう少し時間を取っておけばよかったと思うのですが、申し訳ないです。

質問ではないのですが、28日に出馬表明の記者会見をされたと思うのです。それで、私がかよって残念だなと思ったのは、それに同席していた議員が数名いて、それを私なんか知らされていなくて、多分知らない議員さんもいたと思うのです。その辺は、同じ議員ですから、やはり同じような情報を与えてもらいたいというのを町長にお願いしたいのと、あと今回の境町モデルについてちょっと調べてみたのですが、これPOTLUCK YAESUというのでしたっけ、マガジン。

〔「はい」と言う者あり〕

○4番（鈴木英明君） それにちょっと載っていたのです、今年の7月の17日の特集記事で。町長がまさに今言ったように、「自治体の「非常識」を「常識」に」という項目で特集の記事があったので、ちょっとそれを紹介させてもらう時間まだあると思うのですが、町長がこんなこと言っていたのですが、まずは行動してほしいですね。財源がないなら補助金の取り方を学ばばいい。人材がいなければ、民間と組めばいい。先にやっている町を見て、いいと思ったらまねすればいい。それで、地域全体がよくなっていけば、日本全体も変わっていくと思いますというふうに町長が取材を受けていたのですが、まさにこの境町モデル、12年間の町政の中で、この記事を読んだときに自分事のように、先ほども言っていたのですが、そういうのもよく分かったし、町長がやってきたことに対する境に対する思い、それというのは今回感じましたので、ぜひ再選していただきまして、まだ境町課題多いですから、町発展のために町政運営をしていっていただきたいと思えます。

私の質問は以上で、これで終わりにします。ありがとうございました。

○議長（倉持 功君） これで、鈴木英明君の一般質問を終わります。